

Kawasaki INnovation Gateway

Newsletter Vol.17 2018年1月発行

川崎市
KAWASAKI CITY

臨海部国際戦略本部
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1
TEL:044-200-3634 FAX:044-200-3540
<http://www.king-skyfront.jp/>

日本のものづくり技術を支える 川崎臨海部で輝く「リケジョ」たち



日本経済を牽引する高度なものづくり機能とそれを支える研究開発機能が集積している川崎臨海部には、日本の今を担う『「リケジョ」(理工系女子)』たちが日夜活躍しています。そんな彼女たちのエネルギッシュな姿をご紹介します。

現在の仕事

川田翔子

(JFEスチール株式会社)



大学時代の専門は伝熱工学で、研究テーマは「地域冷暖房システム(街全体を対象とした省エネルギー技術)」でした。巨大な工場群に魅力を感じて入社して4年目の現在、生産ラインに技術的な改良を重ね、お客様が求める鋼材のスペックや数量に応えていくことが職務です。4,000tの荷重や1,200度の鉄という、非日常的なエネルギーに魅力を感じる毎日です。

漆迫尚子

(JXTGエネルギー株式会社)



入社5年目。親子対象の教室参加をきっかけに、小学生の頃から理科に興味を持ち、理科系に進みました。学生時代の専門分野は有機合成化学で、抗がん剤になるような天然物質の化学的合成方法を研究していました。現在は化学製品のプラント管理を担当。製造所全体の収益向上や省エネルギーの検討等を主な仕事としています。

丹羽三冬

(旭化成株式会社)



両親共に理科の教員だったため、自然に子どもは3姉妹とも理科系に進み、私は半導体材料やデバイスへの化学的なアプローチを学んでいました。入社3年目の現在は高分子微粒子を利用したコーティング剤の開発に従事しています。研究開発は孤独で地味な作業の連続ですが、新たな発見に出会った時の感動を今も追い求めています。

川崎臨海部のイメージ

【川田】 小学校の授業で習った影響もあり、周りには「(川崎のような)工業地域は環境に負担をかける場所」という印象を抱いている方が多かったように感じます。大学時代の友達も同様で、入社当初に川崎臨海部勤務というと、「すごいところで働くね…!」としばしば驚かれたものです。理科系といえども、川崎臨海部は「研究する場」というよりは「男社会の工場現場」というイメージが皆強かったと思います。ただ私は、成果が現場にフィードバックされるまでに時間のかかる「研究」よりは、自分の創意工夫をすぐに反映できる「生産現場」で働きたかったのです。また工場風景も好きで、学生時代から川崎臨海部のナイトクルージングやドライブを楽しんでいたため、ここに配属された時はとてもうれしく思いました。

【漆迫】 川崎臨海部は工場が多く「公害」につながるイメージが強かったのですが、実際に勤務すると環境対

策がされており、そのイメージは払拭されました。入社以前は研究に携わりたいと思っていましたが、研究者の方々と一緒に働く機会も多くあり、将来的には今の現場経験を生かしたアプローチで研究したいです。また、多くの方々が夜景を見に臨海部に来られるので、工場地帯ならではの魅力もあるのではないのでしょうか。

【丹羽】 私は石川県出身のため、以前は川崎臨海部に対する明確なイメージはあまりなかったように思いますが、実際にそこで生活していると、働きやすく住みやすい場所だと感じます。川崎市が共働きで子育てしやすい環境なのかもしれませんが、今は「弊社の他の事業所と比較して、働く女性が多い」という印象を持っています。



もっと女性が活躍できる臨海部に向けて

【川田】最近は女性社員の配属が多く、快適に働ける職場環境も整っており、ありがたく思います。以前に比べて大分変化していますが、結婚し、子育てするようになると、男性と比較するとまだまだ女性の負荷が大きいことも現実。弊社では全社的に働き方改革やダイバーシティを推進していて、男性管理職の方々の理解も進んでいます。また、子育てしながら働くことを考えると、事業所内に保育所があると安心ですが、今、そうした検討もされているようです。川崎臨海部は、学校の授業ではと



かく「負の側面」が強調されがちですが、私たちの生活に貢献していることを子どもが実感できるまちなってほしいと思っています。

【漆迫】私の所属する事業所は365日24時間稼働しており、夜勤の女性社員もいます。弊社でも、女性に限らず、親を介護する社員なども含め、働き方のダイバーシティを啓発・実践するための社内教育の機会が増えてきており、男性社員の理解も進んでいると思います。また、弊社に限らず、臨海部に朝早くから出勤する女性

が多くいらっしゃいます。社内の「女性座談会」では、「子どもを抱えて臨海部で働く女性が、企業の枠を越え、共通して利用できる保育施設がほしい」という声が多く出ています。川崎市にもぜひご協力いただけたら、大きな助けになると思います。



【丹羽】私は研究所に所属しているため、お二人の職場より女性比率は高いと思います。子ども連れで海外赴任されるパワフルな女性社員もいますし、先輩方が女性社員の集まりの場を設けて下さるので、将来仕事を続けていく上での子育てとの両立など、悩みや不安も相談できる職場です。臨海部で働き、市内で暮らす今の生活には満足しています。ただ、市外の方が抱く川崎臨海部のイメージと、私たちのように実際にそこで働いている人間の実感には、大きなギャップがあるように感じます。臨海部を含めた川崎市の魅力を、市外の方々にも積極的にアピール・発信した方がいいのではないのでしょうか。

臨海部で働く魅力

【川田】一人のエンジニアとして、日本経済を支える京浜工業地帯の中核で働くことに、私はロマンを感じています。各工場施設は巨大で、とてもダイナミックです。技術系の職場は辺鄙な場所に立地していることが多いですが、川崎臨海部は都市部に近く、そこにメリットを感じます。仕事上の交通アクセスの利便性は高く、そうした場所で物を造る喜びを毎日享受できることに、幸せを感じます。

【漆迫】川崎臨海部は主要な駅や空港が至近なため、出張時の移動時間を効率的に使えます。また、弊所は、中東の諸外国等、海外から来訪されるお客さまも多く、

国内外を問わずとても便利なところですよ。加えて、インバウンドもアウトバウンドも容易なエリアであることは、情報発信という観点からも、大きな優位性を擁していると思います。

【丹羽】川崎臨海部には世界に誇れる技術を持った企業が集積しているため、他社の工場を見学するなど、企業同士も刺激し合いながら向上していける環境だということも、私にとっては大きな魅力です。仕事に疲れた夜、ふと見えるプラントの夜景は癒しになりますし、そこで昼夜を問わず働いていらっしゃる方々のことを考えると、「私も日々頑張ろう!」と励みにもなっています。



■出席者(左から)

【川田翔子】

JFEスチール株式会社

東日本製鉄所 京浜地区 熱延部 熱延技術室

宮城県出身 理工学部機械工学専攻

【漆迫尚子】

JXTGエネルギー株式会社

川崎製造所製油技術グループ

東京都出身 理工学部化学専攻

【丹羽三冬】

旭化成株式会社

研究・開発本部化学・プロセス研究所(川崎駐在)

石川県出身 応用化学専攻



国立としては最も歴史がある試験研究機関で、医薬品や食品、生活環境にある化学物質の品質や安全性、有効性を科学的に正しく評価するための試験・研究や調査を行っています。平成30年1月までにすべての部門がキングスカイフロントに移転します。



食と暮らしの安全性を

科学的に正しく評価するための

試験や研究を行っています

国立医薬品食品衛生研究所 所長 川西 徹

Q 何をしている研究所ですか？

A わかりやすくお伝えするために、明治7年の設立当初に遡ります。西洋医薬の導入が本格化した際に、粗悪な薬がたくさん入ってきたため、明治政府は、海外から呼び寄せた薬学者ゲールツ氏の進言もあり、医薬品を化学分析・検査する「東京司薬場」を設立しました。それが当研究所の起源です。その軸足は今も変わらず、新たに生み出される医薬品や食品、化学物質の品質、安全性、有効性を科学的に正しく評価する試験・研究や調査を行っています。安全性が優先されますが、特に薬の場合、効かないと意味がありません。本当に国民の利益にかなうものなのかの判断ができることが重要です。

Q 身近なものでいえば、どんなものが対象ですか？

A 例えば野菜に含まれる残留農薬がどの程度までなら安全なのか、基準を定めるための試験研究を行っています。最近では遺伝子組み換え食品や再生医療等製品なども加わりました。ノロウイルスなどによる食中毒の原因を追究したり、ひと頃話題になった危険ドラッグを迅速に規制するうえでの試験研究も行っていきます。東日本大震災の原発事故後は食品中の放射性物質検査法の統一役を果たし、その後も食品中の放射性物質の検査を継続しています。以上のように、医薬品や食品等の規制で用いる試験法を統一する役割を果たすとともに、また安全性上の懸念があるケース等については、国としての試験を行うこともしばしばあります。

Q 新たに取り組んでいることは？

A 規制で何を要求するかによって、日本の将来も

変わります。例えば、iPS細胞の再生医療や創薬への応用などは、慎重になりすぎ過度に規制を厳しくすると、国内での臨床応用が遅れ、人も技術も海外に流出してしまいます。規制=ストップさせる、と思われがちですが、開発者とも情報交換や対話を重ね、安全かつ迅速に患者さんに医薬品を届けることができるよう、合理的かつスムーズな開発環境を作ることに寄与したいと思います。

Q 日本の成長も支援しているのですね。

A 原料資源に恵まれていない日本は、今後の成長には海外に輸出することのできる日本発の製品を生み出すことが重要でしょう。その意味で国際化の時代では、規制の国際調和はとても大事なことです。国際間で試験法の違いや安全性基準が異なると、輸出入に際し試験をやり直さなければならなくなることもあり、不合理で、日本の成長にも大変な障壁になります。日本発の製品を海外に出すために、安全性基準等についても国際的な視点を持ち、諸外国の規制当局とも意見交換しながら対応する必要があると思っています。

Q 川崎市の皆さんにメッセージを。

A 関わりの深い企業や研究機関が集まるエリアに移転できたことは、大きなメリットです。海外との交流も多いので、羽田空港が近いのも魅力。これからの方向性を考えるとベストに近い立地で、この強みを生かさないともったいない!と思っています。市民の皆さんにも研究所のことをもっと知っていただけるよう、努めていきたいです。